

上の才幹によりてしかりしなれども、然れども、夫人の内助、大いに與かりて力ありしは疑ふ可からず。

當時夫人は、如何にもして、温和なる革命により、現下の問題を解決せしめんと欲し、常に其良人に待して、内外の政客に接し、革命は止む可らず然れども、急激なる革命は最も之を避けざる可らず、蓋し革命の止む可らざるは國家の弊政を矯め人民をして天賦の權能を完ふせしめんがためなり、然るに急激なる改革はその弊を矯めんとして一層多くの弊を遺すものなり。天權を振張せんとして一層之を滅殺するものなり、所謂病を治して人を殺すものなり、角を矯めて牛を亡ぶの類、大に戒めざる可らずとなし、諄々唱導して倦まず、ローランド氏がギロンド黨に入りたるも、ギロンド黨の政客が相率ゐて氏の袖下に集合せしも、夫人の助力に原因せずんばあらざるなり。(以下次號)

ヴィクリアト陛下

同人

緒言

明治三十四年一月二十二日大英國女皇ヱキクヱリア陛下崩御し給ふ、女皇壽を享け給ふこと八十三歳、世を治しめし給ふこと六十六年、盛徳六合に光被し、仁慈草木に及ぶ英國皇室は勿論、四億萬を以て數ふる英國臣民の悲嘆果して幾何ぞや。

我 皇上、深く哀悼の意を表せられ、宮中喪を行はせ給ふこと三週日、

帝國議會、また一日の休會を決議し、帝國民痛惜の誠意を表す、吾人異國の民、地をさる數千里、固より人種を異にし、宗教風俗を異にし、言語文章を異にす、而かも陛下の訃音を拜し、悲嘆殆んど禁ずる能はず、偶々

座右を探りて、陛下の略傳を書ける英文の小篇を得、即ち補譯して之を本誌に登載す、敢て女皇の傳を立つといふにわらず唯讀者とともに、同情の涙を分たんとてなり。

第一 女皇の幼時

女皇は一千八百十九年四月十九日、ケンシントン城に降誕し給ふ、父なるケント公爵は、先きにゼルマンに住ひけるが、その夫人の妊娠せるを以て、本國なる英國に歸りて分娩せしめんと申し立ちて、急に歸國し給ひ、さてケンシントンにと入城したるなり。

やがて、公爵夫人には、やすくと出産し給ふ父公爵の喜悅斜めならず、其年の秋の暮に、公爵は一家をシドマスに移しぬ、生兒の健康に適當なる地なりとありてなり。

(以下次號)

文苑

車のわだち (承前)

撃水生



△この正月、朝より來合せ居たりける賀客の漸く辭し去りたる二時過ぎ頃、出入りの車屋の親分、年始にて來りぬ。取り散らしたる盃盤を片付けさせながら、吾は更に屠蘇祝は、ん程に今少し、こちらにと招げば彼は近く進み、恭しくぬかつきて、祝詞を述べぬ。

『どうだね、車屋さん、去年は、しつかり儲かつたかね。』

「へ、へ、へ、お蔭さまで……併し、どうも實申し上げりや駄目でございしましたな。もう、私も御覽の通